

## 令和2年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標)  |  | 前年度の成果と課題  | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)  |
|---|--|--|---|
| <p><b>【教育目標】</b><br/>自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p><b>【めざす生徒像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を持って自ら学ぶ生徒</li> <li>・思いやりのある生徒</li> <li>・進んで心と体を鍛える生徒</li> </ul> <p><b>【重点課題】(社会的自立につながる教育)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上</li> <li>・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</li> </ul> | <p style="text-align: center;"><b>本年度の成果と課題</b></p> <p><b>【授業改善と学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一貫教育の成果として、中学校における授業改善が進み、教師の講義型授業からペア学習・グループ学習を取り入れた生徒主体の授業に変わりつつある。</li> <li>△一部の教科・学年では、学力差が広がり、基礎学力の定着に課題がある生徒が少なくない。</li> </ul> <p><b>【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の状況が安定し、学校全体がたいへん落ち着いた環境の中で教育活動が進められている。</li> <li>△不登校出現率が高止まりしており、生徒の気持ちに寄り添った生徒指導や保護者・関係機関との連携がますます重要である。</li> </ul> | <p style="text-align: center;"><b>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</b></p> <p>1 授業改善と学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の全面实施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に今年度は「深い学び」を育む授業展開を意識した授業構想力の基礎を培う。</li> <li>・社会的自立につながるための基礎学力の定着を全生徒に徹底する。</li> </ul> <p>2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にす言動の徹底に努める。</li> <li>・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組みを展開する。</li> </ul> |   |
| 評価項目  | 重点目標   | 具体的方策  | 成果と課題(自己評価)   |
| <p>教育課程<br/>学習指導</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業研究を推進する。</li> <li>・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「深い学び」を育むために、他者と一緒に学び、自ら探求する姿勢を育成する授業構想について研究を進める。</li> <li>・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍の条件の中であったが、ペアやグループでの対話型学習も大切にし、学びの集団作りを進めることで、意欲の向上や深い学びにつながる生徒の姿が見られた。</li> <li>○補充学習につながるを大切にす「ハートフル♡スタディ」を実施することで参加者の意欲の向上が見られた。</li> </ul>  |
| <p>生徒指導</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の3機能を生かした学級経営を柱とし問題行動の未然防止と不登校の解消に努める。</li> <li>・いじめの早期発見・早期対応・未然防止への組織的取組みの展開を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営への支援を組織的・計画的に展開する。</li> <li>・いじめアンケートの確実な実施とともに早期発見に向けた二者面談を計画的に実施する。</li> <li>・不登校の解消と未然防止に向け、SCやSSWを含む組織的な教育相談体制を確立し、具体的な方針を立てて実践する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○二者・三者面談を年間4回実施し、子どもに寄り添う指導を行った結果、問題現象の発生が昨年度比7割を下回る状況である。</li> <li>○不登校出現率の減少を重点として取り組み、元年度出現率3.56%から2年度2.09%に減少させることができた。</li> <li>△しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組みの展開が今後重要である。</li> </ul> |

|               |   |  |   |
|---------------|---|--|---|
| 健康（体育）・安全     | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健教育と管理の徹底を図る。</li> <li>安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。</li> <li>部活動の充実と体力の向上を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>確実な日々の健康観察と感染症予防対策の徹底を図る。</li> <li>交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。</li> <li>主体的に部活動に取り組むための指導を進める。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感染防止対策を丁寧を実施することで、自己管理意識も高い状態で維持できている。</li> <li>○ 交通安全指導を徹底することで、交通事故の件数が、元年度7件から2年度5件へと減少した。</li> <li>△ コロナ禍の部活動において制限が多かかり、十分な活動を保証することができなかつた。</li> </ul>   |
| 研修（資質向上の取組み）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>初任者研修を柱とし、若手教員の資質能力の向上を図る。</li> <li>新学習指導要領に対応した研修を充実させる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員で初任者研修を進めるとともに、若手の講師も含めた育成を組織的に展開する。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを、外部講師を招聘し計画的に進める。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍にあり、初任者研修のスタートが例年通りとはいかなかったが、校内での指導も丁寧を実施し、充実した1年間にする事ができた。</li> <li>○ 外部講師を招聘し、深い学びを作り出すための研究授業を実施し、取り組みができた。</li> <li>○ 「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究指定をきっかけに、単元構想を大切にしながら指導力が高まり、生徒も見通しをもって授業に取り組む姿勢が高まった。</li> <li>△ この研究をコロナ禍の影響もあり他教科に広めきれなかつた。</li> </ul> |
| 人権教育          | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権問題についての理解や認識・実践力を高める。</li> <li>教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中の活動や取組みの中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。</li> <li>「人権教育に関する教職員の意識調査」の結果を踏まえた研修を実施し、意識の向上を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルス感染症に関する人権学習も実施し、自他を大切にすることを育むことができた。</li> <li>○ 人権教育に関する教職員の意識調査結果からの研修を2回実施し、人権問題に高く関心を持つきっかけとすることができた。</li> <li>○ 教職員の言動について、人権尊重の視点から常に振り返ることを全員で意識し、生徒を大切にすることを共有できている。</li> </ul>  |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>① 令和3年度から一人1台のタブレットが導入されることから、ICTの活用を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを更に進めていく。</p> <p>② 人権が尊重される環境づくりを基盤として、不登校やいじめの未然防止を、あらゆる教育活動を通じて実践していく。そのため、教職員の人権意識向上の研修と生徒同士の研習と生徒同士のつながりをつなげるための環境の整備を行うっていく。</p> |  |   |

## 令和2年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立大宮中学校 ]

| 学校経営方針(中期経営目標)  | 前年度の成果と課題  | 具体的方策   | 重点目標  |
|---|--|---|---|
| <p>1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成</p> <p>2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着</p> <p>3 健康な体と豊かな心の教育の充実</p> <p>4 信頼され、開かれた学校づくり</p> <p>5 教職員の資質能力の向上</p> <p>6 大宮学園保幼小中一貫教育の推進</p>  | <p>○ 視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。</p> <p>○ 第1回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。</p> <p>○ 全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。</p> <p>○ 「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。</p> <p>△ 継続的に不登校が大きな学校課題となる。</p> <p>△ 昨年度の「不適切な指導に係る学校危機」を教訓とし、教職員の人権意識の醸成と生徒の心に寄り添った指導を積み重ねる。</p> | <p>・ 大宮学園合同授業研究及び合同研修会を通し、授業改善につなげる。</p> <p>・ 生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。</p> <p>・ CRTテスタの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・ 授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。</p> <p>・ 全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。</p> <p>・ 「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>・ 地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。</p> <p>・ 家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。</p> | <p>・ 小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善</p> <p>・ 「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり</p> <p>・ 丹後学の研究と推進</p> <p>・ 家庭学習の習慣化に向けた取組みの推進</p> |
| <p>1 質の高い学力の育成</p> <p>・ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善</p> <p>・ 授業づくり</p> <p>・ 生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着</p> <p>・ 生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援</p> <p>・ 人権教育を基盤とした指導の展開</p> <p>・ 特別支援教育の充実</p> <p>・ 校内体制の充実と機能化</p> <p>・ 個に応じた指導の充実</p> <p>・ 信頼される学校づくり</p> <p>・ 家庭及び地域との相互連携の推進</p> <p>・ 外部関係機関との連携強化</p> <p>・ 大宮学園運営協議会との協働</p> | <p>前年度の成果と課題</p>   | <p>成果と課題 (自己評価)</p>   | <p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p>   |
| <p>1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成</p>   | <p>○ 視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。</p> <p>○ 授業を公開し、お互いの授業から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに生かすことができた。</p> <p>○ 各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行った。授業改善や補充学習に生かすことで基礎学力の定着と向上が見受けられた。</p> <p>○ 「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。</p> <p>△ 特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。</p>     | <p>・ 大宮学園合同授業研究及び合同研修会を通し、授業改善につなげる。</p> <p>・ 生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。</p> <p>・ CRTテスタの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・ 授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。</p> <p>・ 全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。</p> <p>・ 「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>・ 地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。</p> <p>・ 家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。</p> | <p>・ 小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善</p> <p>・ 「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり</p> <p>・ 丹後学の研究と推進</p> <p>・ 家庭学習の習慣化に向けた取組みの推進</p> |

|               |  |  |  |
|---------------|--|--|--|
| 生徒指導          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の合同生指部会の開催</li> <li>・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上</li> <li>・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成</li> <li>・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決</li> <li>・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園人権・生指部会を通し、連携と情報共有に努める。</li> <li>・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の一致を徹底する。</li> <li>・不登校生徒との信頼関係作りに努め支援を組織的に行うとともに、毎週の教育相談部会の機能強化を図る。</li> <li>・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取り組みを生徒の動きづくりと関連させながら行う。</li> <li>・研修を通して教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、生徒同士の信頼関係の構築に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取り組みの充実を進めた。</li> <li>○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。</li> <li>○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、全校で取り組みを進めることができた。</li> <li>△新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。また、引きこもりを出さないよう関係機関と連携していく。</li> </ul> |
| 健康（体育）・安全     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> <li>・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施</li> <li>・健康教育の充実</li> <li>・部活動の推進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。</li> <li>・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。</li> <li>・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。</li> <li>・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にす。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスに危機感を持ち、感染防止を徹底させ、安心安全な環境づくりを進めることができた。</li> <li>○生徒会及び専門委員会活動の活性化を進め、学校生活の向上について、生徒に考えさせ行動させることができた。</li> <li>○部活動部長会が中心となり、目指す部活動像について考えさせ、目標を持って頑張らせることができた。</li> </ul>  |
| 開かれた学校づくり     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育資源の教育活動への活用</li> <li>・各関係機関との連携と協働</li> <li>・学園運営協議会（コミュニティ・スクール）との協働</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターを通じて、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働を進める。</li> <li>・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間での講師等地域の方々と学校とをつないでいただくことで、深く学ぶ機会となった。また、学校の様子を知らせてもらえた。</li> <li>△学園運営協議会と連動した具体的な取組みを、生徒会も巻き込みながら協働して取り組む。</li> </ul>  |
| 危機管理          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の視点に立った指導の展開</li> <li>・人材育成の推進</li> <li>・コンプライアンス遵守の徹底</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の「不適切な指導」に係る教訓を実践に生かす。</li> <li>・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。</li> <li>・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底させる。</li> <li>・学年及び分掌主任の育成を図り、組織的に実践を進める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○その都度、人権を大切にしたい指導・支援になっていくかを振り返りながら危機意識を持って実践できた。</li> <li>△生徒への指導支援の初動を大切にするとともに、生徒やその保護者の思いに寄り添った指導支援を丁寧な積み上げていく。</li> </ul>  |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大宮小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「効果的・効率的精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。</li> <li>2 学力向上に向け学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園研修での授業研究での効果的に進めていく。</li> <li>3 ICT（授業支援システム、オンライン授業、タブレット等）の活用を効果的に進めていく。</li> <li>4 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能を強化し、全教職員であたる。</li> </ol> |  |  |

# 令和2年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立網野中学校 ]

| 学校経営方針(中期経営目標)                             |   | 前年度の成果と課題  |                                     | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)  |   |
|--|---|--|-------------------------------------|---|---|
| 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 | 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。  | 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。   | 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 | 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。   | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)<br>「ほめて、認めて、他者(社会)とつながり」の展開<br>「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。<br>1 指導の重点<br>(1) 学ぶ意欲、確かな学力の育成<br>(2) 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成<br>(3) 不登校の未然防止と解決<br>2 具体的方策の明確化と進捗管理<br>(1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進<br>(2) 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進<br>(3) 特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実 |
| 評価項目                                       | 重点目標  | 具体的な方策   |                                     | 成果と課題(自己評価)   |   |
| 教育課程<br>学習指導                               | 1 授業実践力の向上を図る。<br>2 家庭学習時間を確保し、家庭学習の習慣化を図る。<br>3 教科横断的な教育活動を推進し、活用する力を育成する。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修形態の工夫により、実践の効果検証、指導方法の改善サイクルを重視した授業研究を進める。</li> <li>・授業実践においては、特に「対話的な学び」(言語活動)に焦点化し実践を深め、生徒同士の良好な関係性と学びを深め、学びに向かう力・人間性の醸成につなげる。</li> <li>・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、学習習慣を図る。</li> <li>・教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育活動を推進し、教育効果を高める。</li> </ul> |                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体での理論研修、事前・事後の協議を行う授業研究会を継続して開催し、授業改善に取り組むことができた。</li> <li>○授業中に「思考をくぐらせる場面」「考えを交流する場面」を意図的に設定することで、生徒は意欲的に取り組んだ。</li> <li>○道徳と特別活動を関連付け、指導を展開した。</li> <li>△家庭学習の定着に取り組んだが、家庭学習の時間確保には課題を残した。</li> </ul> |   |
| 生徒指導                                       | 1 自己指導能力を育成する。<br>2 いじめ等の人権侵害を未然に防止するとともに、早期解決を図る。<br>3 不登校の未然防止と解決に向けて、取組みを強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒が意識し、教員・生徒相互の取組みにより自己指導能力の育成を図る。(居場所づくりと絆づくり)</li> <li>・「ほめて、認めて、他者(社会)とつながり」を合言葉に、実態把握、つながる場の設定、適時性ある肯定的評価の取組みを積み上げる。</li> <li>・個々の役割を明確にし、チームとして取組みを推進する。</li> </ul>  |                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育活動において、生徒は仲間とのつながりを大切にしたい学校生活を送ることができた。</li> <li>○肯定的に評価するとともに、生徒の実態を把握しいじめや暴力事象の未然防止の取組みを進めた。</li> <li>○生徒同士をつなぐ、欠席状況等の把握による早期対応、関係機関等の専門性の活用等に取り組み、不登校の改善につながった。</li> </ul>                           |   |

|               |   |  |   |
|---------------|---|--|---|
| 健康(体育)・安全     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体力の向上を図る。</li> <li>2 望ましい食習慣を身に付けさせる。</li> <li>3 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。</li> </ol>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種体力テスト等の結果を踏まえ、運動部はもとより文化部活動等において健康増進・体力向上の取組みも定期的に実施する。</li> <li>・毎月の食育の日、給食週間の取組みをさらに充実させる。</li> <li>・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動や体育の授業をとおして、基礎体力の向上、種目の技能を高めることができた。</li> <li>○給食の時間の校内放送、栄養教諭を講師に招いての食育指導等により取組みが充実した。</li> <li>○避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、「ゲーム・ネット講座」を実施し、安全に対する意識の向上、危機回避能力の育成に努めた。</li> </ul>   |
| 特別支援教育        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内支援体制の機能化を図る。</li> <li>2 個々の生徒や保護者のニーズを把握し、支援を実施させる。</li> <li>3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善を図る。</li> </ol>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会の機能化を図る。</li> <li>・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。</li> <li>・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援を実施し、有効な手立てを蓄積する。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき、該当生徒及びその保護者の理解を図った指導・支援を進めることができた。</li> <li>○校内支援委員会の機能化を図ることができ、特別支援教育の充実につながった。</li> <li>○学習や生活上の困難さに対する相談・支援を充実し、学校不応の未然防止にもつながった。</li> </ul>  |
| 開かれた学校づくり     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 信頼される学校づくりに推進する。</li> <li>2 双方向の情報交流を活かし、学校改善を推進する。</li> </ol>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。</li> <li>・たより、HP等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。</li> <li>・学校運営協議会(網野学園教育応援会)、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組みの改善を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者との日常の連携を大切にし、保護者の意見等を踏まえ、誠実な対応に努めた。</li> <li>○学校により、学校運営協議会だより、HPの活用により、学校の取組みを積極的に発信した。</li> <li>△新型コロナウイルス感染症拡大防止により、学校公開、授業参観等を自粛しなければならず、その機会が減少した。</li> <li>○学校運営協議会を発足し、委員及び委員所属組織から教育活動への支援や意見をいただくことができた。</li> </ul> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながろう仲間と つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につなぐを意識させ学校生活を充実させる取組みを継続し、安心・安全な学校生活を維持・向上させる。</li> <li>・GIGAスクール構想により配備される生徒一人一台の端末を活用した授業づくりの実践を進め、生徒の学力向上の取組みを充実させる。</li> <li>・各分掌と連携した組織的な取組みを行い、学ぶ意欲の向上、規範意識の向上、規範意識の未然防止等に引き続き取り組む。</li> </ul> |  |   |

## 令和2年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹後中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標)   |   | 前年度の成果と課題   | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)  |
|--|---|---|---|
| 開校7年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。 | 「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活に取り組むとともに、学習、部活動、様々な行事・取組みで力を発揮した。仲間を思いややる校風もすっかりしたもとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組み力をつけさせたい。  | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)<br>丹後中学校開校7年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする<br>～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～<br>○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。<br>○教育活動(学習・行事・取組み等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。  | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)<br>丹後中学校開校7年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする<br>～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～<br>○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。<br>○教育活動(学習・行事・取組み等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。  |
| 評価項目   | 重点目標  | 具体的方策   | 成果と課題(自己評価)   |
| 教育課程<br>学習指導   | <ul style="list-style-type: none"> <li>互いに認め合い、学び合うコミュニケーション力の育成を図る。</li> <li>一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。</li> <li>基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科で積極的に電子黒板などICT機器の活用を取り入れるようにし、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、確かな学力の定着へ向けた実践を行う。</li> <li>目標と指導と評価の一体化した取組みを、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりに研究する。</li> <li>ドリル学習を1学期から取り入れ、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が、積極的にICT機器などの活用に意欲を示し、スキルが向上してきた。授業に生徒指導の機能活かすためのチェックリストを全教職員が活用し、校内授業研究などで、教員間での工夫内容の交流など研鑽に努めた。</li> <li>評価を通して取組みの充実へ向けて、小学校各学年の単元ごとの総括デスタート学習を年間通して実施することができた。また、毎日ドリル学習を年間通して実施することができた。また、英語や数学において、習熟度別少人数授業やT T T指導を行い、個に応じた指導の充実が図れた。</li> </ul>  |
| 生徒指導   | <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等の使用について、実態把握による指導を充実させる。</li> <li>育てたい力を共有し、丹後学園のめざす子ども像の実現への取組みを進める。</li> <li>安心できる仲間関係を築かせる。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSや薬物等に係る「非行防止教室」や講演会を計画的に実施し、自他を大切にしてい、正しく判断し行動する力を育てる。</li> <li>業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。</li> <li>いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒へのSNSの危険性や喫煙・飲酒・薬物乱用に係る学級指導は計画的に計画的に実施し、自他を大切にしてい、正しく判断し行動する力を育てる。</li> <li>業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。</li> <li>いじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会で、検討した週ごとの指導の方向性を全教員へ発信し、学校全体で指導にあたることのできた。いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行う。さらに、全教員による「相談タイム」を学期ごとに行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につなげた。</li> </ul> |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として  |   |   |   |

|               |  |   |  |
|---------------|--|---|--|
| 健康（体育）・安全     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育ち、その力を学習にもつなげる。</li> <li>・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。</li> <li>・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動がかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。</li> <li>・丹後学園PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。</li> <li>・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で活動の制限がある中ではあったが、大会や試合、発表や作品の出展等、日々の頑張りを発信する場として、また、礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることとでき、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。</li> <li>○丹後学園PTA・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（NHD）や登下校指導は計画通り実施できた。生徒の安全安心な学校生活のために、さらに危機意識を持って指導にあたる。</li> <li>○△喫緊かつ重要な課題提起を狙って、SNS教育講演会を丹後学園として実施することを計画したが、コロナ禍の関係で、各校園所で、可能な範囲で実施した。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できた。</li> </ul> |
| 開かれた学校づくり     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校7年目の教育を理解していただく機会とする。</li> <li>・学校だけでなく地域のホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。</li> <li>・地域人材の積極的な活用を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動の場面を見ただけでなく、丹後学園運営を、保護者の方だけでなく、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。</li> <li>・地域の取組みへの積極的な参加や、たよりの配付やHIP更新などで、中学校の状況を伝えると同時に丹後保幼小中一貫教育を広く発信していく。</li> <li>・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>△学校や学園の行事や取組みは広く案内をし、学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めたが、計画した行事などの多くが、感染症防止のため来校していただけなかった。</li> <li>○来校いただけない分、学園HIPや学園だよりなどでの参観していただく予定であった行事内容の発信に例年以上に努めることができた。</li> <li>△学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけでいいから、今ままで以上に学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。</li> </ul>  |
| 特別支援教育        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。</li> <li>・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても全教職員で課題共有を大切に、校内委員会など、組織的に適切な支援を実施する。</li> <li>・専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。</li> <li>△関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。</li> </ul>   |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。</li> <li>・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。</li> <li>・G I G A スクール構想や新学習指導要領完全実施に対応した教育課程づくりや授業改善を進める。</li> </ul> |   |  |

## 令和2年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立弥栄中学校 ]

| 学校経営方針(中期経営目標)   |  | 前年度の成果と課題   | 本年度学校経営の重点(短期経営目標)   |
|--|--|---|--|
| <p>1 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。</p> <p>2 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。</p> <p>3 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。</p> <p>4 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。</p> <p>5 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。</p> | <p>基礎的・基本的な学習内容を定着させるための指導を継続的に行い一定の成果があつたが、主体的・対話的で深い学びについて指導は、今後も研究を重ねる必要がある。</p> <p>落ち着いた学校生活を送ることができていないが、家庭環境や発達課題等から不安定な状態になる生徒も見られるため、専門性に基づいた指導が必要である。</p> | <p>1 人材育成を通して、組織的な指導体制の構築</p> <p>2 基礎基本の定着と主体的・対話的で深い学びのための指導方法の工夫・改善</p> <p>3 特別支援教育の充実</p> <p>4 教職員の資質能力の向上</p>   |  |
| 評価項目   | 重点目標   | 具体的方策   | 成果と課題(自己評価)  |
| <p>教育課程<br/>学習指導</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態等、校内・中学校区授業研究会の実施と指導方法の改善</li> <li>・課題解決型学習の研究と授業づくり</li> <li>・終 SHR 時の延長学習、教え合い学習での基礎基本の定着</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子黒板等 ICT の活用、ペアやグループ学習で意欲的に学習に取り組み生徒が増えた。</li> <li>○ 放課後学習や教え合い学習で繰り返し基礎基本の理解が進んだ。</li> <li>△ 課題解決型学習を積極的に取り入れ、知識を活用、応用できる力を身に付けさせる。</li> </ul>  |
| <p>生徒指導</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応</li> <li>・生徒指導の三機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートや個人面談の実施</li> <li>・生徒との信頼関係を構築するための活動の推進</li> <li>・問題事象に対する丁寧で早期の対応</li> <li>・定例のいじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会の開催</li> <li>・一人ひとりが認められ、他者の意見を踏まえて自分の意見を言える学級づくり</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二者面談や、始業前・休み時間にも教師が意図的に子ども達と関わることで生徒との信頼関係が高まり、生徒が教師に相談しやすい雰囲気が高まった。</li> <li>○ 問題事象に対して、様々な視点から分析、対応することで早期の解決につながった。</li> <li>△ 自己肯定感を高め、望ましい人間関係づくりができるよう、教育活動全体を通じて引き続き取り組みが必要である。</li> </ul> |
| <p>保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>   |  |   |  |

|               |  |   |   |
|---------------|--|---|---|
| 健康（体育）・安全     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の確立</li> <li>・ 部活動の充実</li> <li>・ 保健・安全教育の推進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝のランニングで健康的な身体作りと基本的な生活習慣の確立</li> <li>・ 薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的態様の育成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保健・安全教育、性に関する学習を行い、健康な生活について考えることができた。</li> <li>△ コロナ禍による行動の制限や、臨時休校等で生活のリズムが取れず心身のバランスを崩す生徒も見られた。より一層、自律的態度を育成に力を入れる。</li> <li>△ ゲーム、インターネットによる生活リズムの乱れ、コミュニケーションの課題、使用に関するルール等、実態把握と啓発に努める。</li> </ul> |
| 研修（資質向上の取組み）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修による指導力の向上</li> <li>・ 研修会への参加と伝達講習</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決や指導力向上のための校内研修の実施</li> <li>・ 各種研修会への積極的な参加と研修内容の本校教職員へのフィードバック</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師を招いての研修や、校内の人材を活用しての校内研修を行うことで、生徒理解や指導法の工夫改善にいかすことができた。</li> </ul>   |
| 特別支援教育        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得</li> <li>・ 特別支援コーディネーターによる推進体制の確立</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修による特別支援に関する理解と適切な指導法の習得</li> <li>・ 特別支援コーディネーターが学年や分掌をつなぎ、教職員が適材適所で指導できる体制を確立</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導について、教科担任会を開催し、個に応じた指導を丁寧に行えるようにした。</li> <li>△ 発達の課題に応じた指導をするため、研修を深める必要がある。</li> </ul>  |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題解決型学習を学習指導に積極的に取り入れ、子どもの意欲を高め、自分の考えを発信するとともに、仲間と一緒に解決策を探求する態度を身に付けさせる。</li> <li>2 自尊感情、自己有用感を醸成する指導を行い、生徒が生き生きと学校生活を送ることができるようになる。</li> <li>3 生徒の実態把握に努め、個や集団を伸ばすための指導ができるように研修と実践を行う。</li> </ol> |   |   |

# 令和2年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立久美浜中学校 ]

| <p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>&lt;久美浜学園&gt; 指導の重点：学力向上</p> <p>(1) 基礎・基本の徹底</p> <p>(2) 主体的に学ぶ力の伸長 (授業づくり)</p> <p>(3) 家庭学習時間の確保</p> <p>◆規範意識の醸成を基盤とし、当たり前前に行える学校、「命」「今」「仲間」を大切にすることを旨とする。</p> <p>◆久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上</p> <p>2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上</p> <p>3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善</p> <p>4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とした地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立</p> <p>5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」</p> | <p>前年度の成果と課題</p> <p>○全教育活動において、生徒理解及び指導の充実に努め、生徒の自己有用感・自己肯定感が高まった。</p> <p>○新学習指導要領への円滑な移行に向けた研究推進、学校が指定を受けた「ICT活用による授業改善推進校(京丹後市教育委員会指定)」の研究推進等を軸とした学力向上に係る校内研修(授業研究を含む)を開催し、授業改善に努め、生徒の学びに向かう力の向上、学力の伸長を図った。</p> <p>○発達障害のある生徒の実態把握に努め、授業における支援と通級指導による支援を関連づけ、学年部と連携した指導・支援の充実に努めるとともに、授業や学級経営等での配慮・支援に結びつけた。</p> <p>○迅速、誠実、丁寧な対応と生徒の変容により、保護者の理解が深まるとともに、信頼関係を築くことができた。</p> <p>△家庭学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引きの活用、自主学習ノートの取組み、メディアアクトロル力の向上の取組みを進めたが、さらに家庭学習の充実に力を入れる必要がある。</p> <p>△関係機関等と連携を図り、家庭訪問、別室指導等不登校への取組みを強化したが、不登校生徒数が増加するなど、不登校の解消に課題が残っている。</p> | <p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 教育活動推進上の重点</p> <p>(1) 規範意識と望ましい価値観の醸成</p> <p>(2) 「学びに向かう力」「豊かな人間性」の育成</p> <p>(3) 学力向上の取組みの推進 (規範意識 読解力 漢字力 読書力 学習意欲 学習習慣 読解力 読書力 読書力 読書力)</p> <p>(4) 家庭や関係機関との連携の強化</p> <p>(5) 生徒指導の三機能を生かした指導による生徒の自己指導能力の伸長</p> <p>(6) 未然防止、早期発見・早期対応の指導の徹底</p> <p>(7) 特別活動・学級経営を軸とした主体的活動の活性化 (夏休みの町、キャリアアクトロル、読書対話等)</p> <p>(8) 特別な支援を必要とする生徒の困難さ・ニーズの的確な把握と具体的支援</p> <p>2 組織運営上の重点</p> <p>(1) 「チーム久美浜中」としての具体的組織的な指導の展開・情報共有・協働</p> <p>(2) 危機管理意識と即応力、「気づく力」の体得</p> <p>(3) 安心・安全な教育環境の充実 (廊下、熱中、権威等)</p> <p>(4) 誠実、迅速、丁寧な保護者対応</p> <p>(5) 教職員の働き方改革の推進</p> |
|---|---|--|
| <p>評価項目</p> <p>1 教育課程</p> <p>2 学習指導</p> <p>3 家庭学習時間の確保</p>  | <p>重点目標</p> <p>1 学びと育ちの10年間を見通した教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進</p> <p>2 ICT活用実践力の向上</p> <p>3 家庭学習時間の確保</p>   | <p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○「総合的な学習の時間」の発表は、生き方学習や丹後学、学級活動、合唱などを、キャリア教育の視点で統合させ、「キャリアアクトロル」として開催し、地域の方にも講師で参加していただいた。</p> <p>○校内行事の抜本的な再編成を断行し、教育活動相互の関連性と教育効果を優先した取組みとした。</p> <p>○2年間にわたる授業づくりやICTに係る重点研究を、市教育フォーラムで成果発表できた。</p> <p>△保幼小中の児童生徒及び保護者が共通の課題意識を持つことが出来たが、引き続き学力向上とも関連させて取り組む必要がある。</p>  |

|               |  |   |  |
|---------------|--|---|--|
| 生徒指導          | <p>1 人権教育、道徳教育、「法やルールに関する教育」の推進と規範意識の醸成</p> <p>2 いじめの未然防止と解消</p> <p>3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成</p> <p>4 不登校(不登校傾向生徒)の解消と未然防止</p> <p>5 関係諸機関との連携強化</p>  | <p>◇人権学習、道徳科等の横断的、継続的な指導の充実</p> <p>◇言語活動を基盤とした思考力・表現力を養う学校行事及び生徒会活動における活動の活性化</p> <p>◇肯定的評価の重視(「はあとほっとタイム」の充実)</p> <p>◇GIGAスクール構想及びオンライン授業を視野に入れたICT活用の授業改善推進校としての成果及び市教育フォーラムに向けた研究成果の蓄積、発表</p> <p>◇中核部会の定例化(生徒指導(いじめ対策)、教育相談)、「気づき」・「今週の気になる生徒」の発行</p> <p>◇関係諸機関と連携した非行防止教室の実施</p> <p>◇SCの活用と、教育支援センター「まわら」、まなび・生活アドバイザーの巡回派遣、特別支援サポートセンター巡回相談等の活用による専門性の向上</p> | <p>○コロナ差別や中傷に関する人権教育を重点的に展開した。</p> <p>○2学期には仲間を思いやったり、いじめを起こさない学級づくりの取組みを行ったりすることにより、生徒の意識が変容した。</p> <p>△不登校の未然防止や個別の指導を継続したが、出現率は増加した。さらなる未然防止の取組みが急務である。</p> <p>○コロナ対応に係るサポーターやSC、S・SWの緊急配置事業により、生徒の心のケアが充実した。</p> |
| 健康(体育)・安全     | <p>1 部活動の充実</p> <p>2 緊急時対応訓練の充実</p> <p>3 食育指導、健康教育、安全教育の充実</p>   | <p>◇活動方針を踏まえた適正な部活動指導の実施</p> <p>◇緊急時対応訓練の実施(火災、不審者、地震)</p> <p>◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底</p> <p>◇食育、交通安全教室、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、生命のがん教育、性に関する教育等の実施</p>   | <p>△感染防止に係る措置により、部活動や朝練習の停止、各種大会の中止など、年間通して制限された活動となった。</p> <p>○感染防止の手立てや休校時のオンラインなどが急速に整備され、生徒の健康安全意識が向上した。</p>   |
| 特別支援教育        | <p>1 校内指導体制の機能化</p> <p>2 特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実</p>   | <p>◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援の実施</p> <p>◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積</p> <p>◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談</p> <p>◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化</p>   | <p>○特別支援教育コーディネーター、特別支援教育充実加配、通級指導教室加配などの担当を核として、個別の指導計画や支援計画に基づいた指導や支援を組織的に展開することができた。</p>  |
| 開かれた学校づくり     | <p>1 信頼される学校づくり</p> <p>2 双方向の情報交流を活かした学校改善</p>   | <p>◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応</p> <p>◇たより、HP、PTAメールを活用した情報発信</p> <p>◇久美浜学園学校運営協議会の機能化と地域学校協働活動の推進、地域連携による教育活動の積極的展開</p>   | <p>△保護者や地域との連携強化や積極的発信を心がけたが、感染防止への配慮により、学校公開等の機会は減少した。</p> <p>○学校運営協議会の初年度の活動や方針を、市教育フォーラムでの発表や学校行事への支援・参加により、学校内外に発信することが出来た。</p>  |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>・学園の教育目標に基づいた保幼小中一貫教育を一層推進することにより、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上や不登校の未然防止に努めるとともに、研究授業を含む全体研修や個別研修を充実させる。</p> <p>・「人材育成」と「地域連携」に重点を置き、①「組織力の強化」、②「個々の教師力の向上」、③「学園内、地域、高等学校と密接に連携したキャリア教育の充実・活性化」の3点を複層的・具体的に展開、充実させることにより、学校全体の肯定感の醸成や望ましい生活環境の整備を進めていく。</p> |   |  |